

## はしがき

英語の副詞は一般に、形容詞に **-ly** がついて、たとえば形容詞の **social** や **wise** だと、副詞は **socially**, **wisely** となります。しかし、たとえば形容詞の **wide** は、そのままの形で (1a) のように副詞としても用いられ、さらに (1b) のように、**-ly** がついた **widely** という副詞もあります。

(1) a. John opened his mouth **wide**.

b. Mary smiled **widely**.

ここで、(1a) を \*John opened his mouth **widely**. とは言えず、(1b) を \*Mary smiled **wide**. ととも言えません。副詞の **wide** と **widely** はどこが違っているのでしょうか。

**Ago** と **before** は、ともに「…前に」という意味の副詞として機能し、次のように用いられます。

(2) a. Sue visited Paris four years **ago**.

b. Sue had visited Paris four years **before**.

ただ、ここでも (2a) の **ago** と (2b) の **before** を入れ替えることはできません。**Ago** と **before** の違いは何でしょうか。みなさんは両者を正しく使い分けられますか。

**Narrowly** と **nearly** は、それぞれ形容詞の **narrow** と **near** に **-ly** がついた副詞ですが、次の2文はどのような意味でしょうか。入試に受かったのは、マイクでしょうか、それともジェインでしょうか。あるいは2人とも受かったのでしょうか。

(3) a. Mike **narrowly** passed the entrance exam.

b. Jane **nearly** passed the entrance exam.

本書は、上のような英語の副詞について考察し、その謎を解き明かします。みなさんはきっと、上記のような副詞の使用に関し

て、その背後に整然とした規則があることを理解され、納得されるとともに、言葉の体系的な仕組みに驚かれることでしょう。本書ではまた、副詞だけでなく、in 2000, with Mary, to Hawaii, by ship のような副詞句、The match will be canceled **if it rains tomorrow**. のような副詞節、さらに all, each, both, many, several, some, any, none のような、人や物の数量を表わす「数量詞」についても考察します。

本書は9章からなります。第1章では、(1a, b) で見たような、「広さ」を表わす副詞 wide と widely の違い、そして「高さ」、「近さ」、「深さ」を表わす形容詞形の副詞 high, close, deep と、形容詞に -ly をつけた highly, closely, deeply の違いを明らかにします。第2章では、(2a, b) で見たような ago と before の違いを考察し、第3章では、(3a, b) に示した narrowly と nearly の違いを考察します。

第4章では、副詞句の省略について考えます。そして、英語だけでなく日本語でも、先行文脈で了解されている要素なら何でも省略できるわけではなく、省略のプロセスには整然とした一定の規則があることを明らかにします。第5章では、次のような if 節について考えます。

- (4) a. **If you have an ID card**, you are allowed to enter the library.  
 b. You should study all night, **if you have exams tomorrow**.  
 c. There's some iced tea in the fridge **if you'd care for a cold drink**.

これらの if 節は、どれも「もし…ならば」という条件・仮定を表わし、同じ種類のものだと思われるかもしれませんが。しかし第5章では、これらの if 節が、それぞれ異なる意味や機能を持っており、構造も違っていることを示して、if 節には3つのタイプ

があることを指摘します。

第6章と第7章では、too や also, even や only が文中のどの要素を修飾するかを考察します。たとえば、次の(5a)には、too が Mary を修飾する「ジョンはメアリーにもメールを送った」という解釈と、too が主語の John を修飾する「ジョンもまたメアリーにメールを送った」という解釈があります(他の解釈も可能)。他方、(5b)には、too が Mary を修飾する「ジョンはメアリーにも花束をあげた」という解釈はありますが、too が主語の John を修飾する「ジョンもまたメアリーに花束をあげた」という解釈はありません。

- (5) a. John e-mailed Mary, **too**.  
 b. John gave Mary, **too**, a bouquet of flowers.

(5a) と (5b) でどうしてこのような違いが生じるのでしょうか。

さらに、意外に思われるかもしれませんが、also は、(6a) に示すように、動詞と短い目的語の間には現われません(too も同様です)。しかし、even や only はこの位置に現われることができます。

- (6) a. \*John e-mailed **also** Mary. (\*John e-mailed, **too**, Mary.)  
 b. John e-mailed **even** Mary.  
 c. Mary blamed **only** me.

Too, also, even, only は、どれも副詞だと思われるのに、どうしてこのような違いが生じるのでしょうか。第6章と第7章ではこのような問題を考察します。

第8章では、too や also, even や only の修飾要素の省略について考えます。たとえば次の会話を見てください。

- (7) Speaker A: I know that John e-mailed you. Did Bill e-mail you, **too**?  
 Speaker B: Yes, he did  $\phi$ , **too**.

(8) Speaker A: I know that Bill e-mailed John. Did he e-mail you, **too**?

Speaker B: \*Yes, he did  $\phi$ , **too**.

(7), (8) で、話し手 (B) は、話し手 (A) の質問に対して Yes, he did  $\phi$ , **too**. という同じ答え方をしていますが、(7B) が適格であるのに対して、(8B) は不適格です。どうしてこのような違いが生じるのかを考え、さらに普通の副詞表現 (例えば *equally* や *by taxi*) の修飾要素が省略される場合も考察して、*too*, *also*, *even*, *only* と普通の副詞表現の間には興味深い違いがあることを指摘します。

第9章では、「数量詞遊離」と呼ばれる現象を考察します。これは、*all*, *each*, *both* のような数量詞が、次に示すように、修飾している名詞句から離れて、文中の他の位置に現われる現象です。

(9) a. [**All (of) the students**] will come to the party tonight.

b. [**The students**] will **all** come to the party tonight.

しかし、この現象は、

(i) 他の数量詞、たとえば *many*, *some*, *several*, *three* などでは起こりませんし (e.g. \***The students** will **many** come to the party tonight.)、

(ii) *all*, *each*, *both* などが、主語からではなく目的語から遊離する場合は、次のように不適格な場合 ((10b)) と適格な場合 ((11b)) があります。

(10) a. The president met [**each of the professors**] in his room.

b. \*The president met [**the professors**] **each** in his room.

(11) a. John promised [**each of the girls**] a diamond ring.

b. John promised [**the girls**] **each** a diamond ring.

第9章では、これら (i) と (ii) の謎を解き、数量詞遊離がどのような条件のもとで許されるかを明らかにします。

本書ではさらに4つのコラムを設けました。コラム①では、形容詞形の副詞 *sure* と *-ly* 形の副詞 *surely* の違いについて解説します。コラム②では、通りの名前に *street*, *avenue*, *road*, *lane*, *drive*, *way*, *alley*, *esplanade* など、英語ではさまざまな単語が使われますが（たとえば *Beacon Street*, *Massachusetts Avenue*, *Webcowet Road*, *Kenny Lane*, *Storrow Drive* など）、これらはそれぞれどのような違いがあるかを検討します。コラム③では、*frankly*, *truthfully*, *honestly* のような副詞が文のどの位置に現われるかを解説します。コラム④では、*toilet* の意味について考察し、北米では *Where is the toilet?* と尋ねたら、この上もなく恥ずかしい質問になってしまうことなど、みなさんにきっと役立つと思えるトピックを解説します。参考にさせていただければ幸いです。

この本を書くにあたり、多くの方にお世話になりました。特に *Karen Courtenay*, *Nan Decker* のお二人からは、本書の多くの英語表現に関して有益な指摘をたくさんいただきました。また、お二人に加え、*Phillip Brown*, *Andrew Fitzsimons*, *Alison Stewart* の3氏からも本書の例文に関して貴重な指摘をいただきました。さらに、くろしお出版の岡野秀夫氏と荻原典子氏には、本書の原稿や校正刷りを何度も通読していただき、多くの有益な助言をいただきました。ここに記して感謝します。

2015年 盛夏

著者

## 目次

はしがき *i*

## 第1章

副詞の deep と deeply はどこが違うか? *1*

- 副詞の形と意味 *1*
- High と highly など *4*
- High と highly はどこが違う? *5*
- Wide と widely はどこが違う? *7*
- Close と closely はどこが違う? *9*
- Deep と deeply はどこが違う? *10*
- (24b, c) の deep はなぜ適格か *12*
- 結び *14*

コラム① Sure と Surely *15*

## 第2章

Ago と Before *25*

- 2つの疑問 *25*
- いつから…前なのか? *27*
- the week before と a week before はどこが違うか? *31*
- 未来のある時点が基準となる場合 *33*
- Before のもうひとつの意味 *34*
- Ago は過去形の文に用いられる *35*
- A week ago today 等はなぜ適格か? *36*
- 結び *40*

## 第3章

## Narrowly と Nearly 43

- 勝ったの？ 負けたの？ 43
- 乗り遅れたの？ 間に合ったの？ 44
- Narrowly と nearly の例文とその意味 48
- 「肯定」と「否定」の診断テスト1—付加疑問文 49
- 「肯定」と「否定」の診断テスト2—So / Neither の使用 51
- 「肯定」と「否定」の診断テスト3—動詞句削除 52
- Nearly はなぜ肯定の副詞か？ 53
- (2b)の説明 56
- He nearly made the last train. たとどうか？ 58
- 結び 60

コラム② ボストン チャールズ河畔の散歩道 62

## 第4章

## 情報の新旧と省略の順序

—副詞句の省略— 73

- 分かっているでも省略できない？ 73
- 新情報と旧情報 76
- 省略順序の制約 77
- 日本語の例も同様に説明できる 87
- 日本語の文の情報構造 90
- 日本語の基本語順と「談話法規則違反のペナルティー」 92
- 結び 94

## 第5章

## 3種類の if 節 97

- 同じ if 節か? 97
- 因果関係を示す if 節 98
- 理由・根拠を示す if 節 99
- 発話の動機づけを示す if 節 101
- 3種類の if 節の順序 102
- タイプ(A) if 節とタイプ(B, C) if 節の違い 106
- タイプ(A, B) if 節とタイプ(C) if 節の違い 113
- まとめ 116
- 結び 117

コラム③ Frankly(「率直に言って」)の文中位置 119

## 第6章

## Too, Also と Even, Only(1)

—文中のどの要素が修飾されるのか?— 125

- 前の要素? 後ろの要素? 125
- Too の「修飾ターゲット」 127
- (6)と(7)は何が違っているか? 131
- Too の辞書記載項目 136
- Also の修飾ターゲット 138
- Also の文末および文頭修飾 140
- Also の辞書記載項目(暫定的) 142
- Also の特殊機能 143
- Too や also は動詞と目的語の間に置けるか? 145
- 結び 148



## 第7章

## Too, Also と Even, Only(2) —文中のどの要素が修飾されるのか?— 153

- Even の不思議な振り舞い 153
- Even は「数量詞」としても機能する 156
- 副詞としての even と付加 161
- 文末に位置する even 162
- Even は S 以外の先行要素には付加できない 165
- 文頭に位置する even 166
- Even のまとめ 167
- Only の修飾ターゲットは? 169
- 文頭と文末の only 174
- 結び 176

コラム④ Toilet考 179

## 第8章

## 副詞の修飾ターゲットと省略 189

- 同じ答え方なのになぜ? 189
- 修飾ターゲットが省略されているかどうか 192
- Even や only の修飾ターゲットも同じ 194
- 他の副詞表現は? 196
- 両者はどこが違うのか? 198
- 副詞の修飾ターゲットが複数あるとき 200
- John wanted to go to Paris in September.  
も2つの解釈あり 203
- When did John want to go to Paris?  
— He did  $\phi$  in September. の解釈は? 206
- 結び 209

## 第9章

## 数量詞遊離 211

- All, each, both だけがなぜ? 211
- 主語以外からも遊離できるか? 213
- All, each, both と他の数量詞の違い 214
- Every と any は? 218
- 遊離を許す名詞句は、聞き手が了解している名詞句 220
- 遊離した数量詞は「二次の主語」として機能 221
- さらなる例文 227
- Each の特別な用法 228
- We all of us... のような表現 230
- 結び 233

付記・参考文献 235

# 副詞の deep と deeply はどこが違うか？

## 第1章

### ● 副詞の形と意味

英語の副詞は、形の上で形容詞とどのような対応関係にあるでしょうか。もちろん、最も一般的なのは、次に示すように、形容詞に接尾辞の -ly をつけて派生する形です。

(1) 形容詞	副詞	形容詞	副詞
careful	carefully	natural	naturally
foolish	foolishly	odd	oddly
happy	happily	probable	probably
interesting	interestingly	sudden	suddenly
modest	modestly	wise	wisely

ただ、形容詞に -ly をつけると、すべてが副詞になるわけではありません。形容詞に -ly をつけた形が存在せず、形容詞と副詞が次のように同じ形の場合もあります。

- (2) a. a **fast** runner (形容詞)  
 b. He can run **fast** / \***fastly**. (副詞)
- (3) a. a **long** vacation (形容詞)  
 b. Have you been waiting **long** / \***longly**? (副詞)
- (4) a. an **early** dinner (形容詞)  
 b. He left **early** / \***earlyly** in the morning. (副詞)

# Ago と Before

## 第2章

### ● 2つの疑問

Ago と before は、どちらも「…前に」（たとえば「3年前に」）という意味の副詞として機能し、ある出来事が起こったのがどれぐらい前かを表わします。しかし、次の (1a) では ago, (1b) では before が用いられます。

- (1) a. John graduated from college {three years **ago** / \*three years **before**}.  
 b. John had graduated from college {\*three years **ago** / three years **before**}.

「3年前に」は、three years ago と three years before とも言えるのに、どうして (1a) では three years ago のみ可能で、three years before とは言えないのでしょうか。どうして (1b) では逆に、three years before としか言えないのでしょうか。

(1a, b) の違いは、(1a) は過去形 (graduated) で、(1b) は過去完了形 (had graduated) なので、ago は過去形の文に、before は過去完了形の文に用いられると思われるかもしれません。しかし、次のように、過去形の文にも before は用いられます。

- (2) a. I **saw** this movie **before**.  
 b. Why **didn't** you show me that picture **before**?

# Narrowly と Nearly

## 第3章

### ● 勝ったの？ 負けたの？

最初に、次の問題を考えてみましょう。

次の2文は、彼が勝ったと言っているのでしょうか、それとも、勝たなかった、つまり負けたと言っているのでしょうか。2文を日本語に直し、この点を明らかにしなさい。

- (1) a. He **narrowly** won.  
b. He **nearly** won.

Narrowly を英和辞典でひくと、原意の「狭く、細く」に加えて、「かろうじて、危うく、やっと」などの派生的訳語が出てきます。すぐ下で説明しますが、これらは、narrowly にはない意味合いを含んだ表現で、この単語の適当な訳語ではありません。みなさんは、narrowly の派生的訳語を、単に「狭い幅の差で」を意味する「僅差で」と覚えてください。そうすると、narrowly を用いた (1a) は、「彼は僅差で勝った」という意味で、narrowly を取り除くことによってできる文 (He won.) が表わす意味を肯定します。Narrowly のこの肯定的意味は、just barely の肯定的意味とほぼ同じものです。

Nearly を英和辞典でひくと、「ほとんど、ほぼ」に加えて、「もう少しで～するところ、危うく～するところ」というような熟語

# 情報の新旧と省略の順序

## 第4章

### —副詞句の省略—

#### ● 分かっているでも省略できない？

日本語は省略が多く、分かっている事柄は自由に省略できるとよく言われます。しかし、分かっている事柄が何でも自由に省略できるわけでは決してありません。たとえば、次の2組の会話を見てみましょう。

- (1) 話し手A: 君は、夜12時にはもう寝ていますか。  
話し手B: はい、僕は  $\phi$  もう寝ています。
- (2) 話し手A: 君は、夜12時に寝るんですか。  
話し手B: \*はい、僕は  $\phi$  寝るんです。

(1) では、話し手 (A) の質問に対して、話し手 (B) は、「夜12時には」を省略して、「はい、僕は  $\phi$  もう寝ています」と答えることができます。しかし (2) では、話し手 (A) の質問に対して、話し手 (B) は、「夜12時に」を省略して、「\*はい、僕は  $\phi$  寝るんです」と答えると、極めて不自然で、不適格な文となってしまいます。省略された「夜12時には」と「夜12時に」は、ともに話し手 (A) がすでに言っていることなので、話し手 (B) には分かっていることです。しかし、(1B) は適格ですが、(2B) は不適格です (【付記1】参照)。

同じことは、次の例でも観察されます (どの単語にも顕著な強調ストレスを置かないで発音されたものとします)。

## 3種類の if 節

### 第5章

#### ● 同じ if 節か？

If 節を含む次の3つの文を見てみましょう。

- (1) a. The game will be canceled **if it rains tomorrow**.  
 「明日雨が降れば、その試合は中止になります。」
- b. You should study all night, **if you have exams tomorrow**.  
 「明日試験があるのなら、君は徹夜で勉強すべきだ。」
- c. There's some iced tea in the fridge **if you'd care for a cold drink**.  
 「冷たい飲み物が欲しければ、冷蔵庫にアイステイーが入っています。」

日本語訳から考えると、(1a-c) の if 節は、「(もし) …なら」という意味を表わす条件節で、いずれも同じ種類のもののように思われるかもしれませんが。実際、多くの辞書や参考書には、if 節は、「もし…ならば」という条件・仮定を表わすと書かれています。しかし本章では、(1a-c) の if 節が、それぞれ異なる意味や機能を持っており、また構造も違っていることを示して、if 節には3つのタイプがあることを指摘したいと思います。

# Too, Also と Even, Only (1)

## 第6章

—文中のどの要素が修飾されるのか?—

### ● 前の要素? 後ろの要素?

Too は also より口語的で、話し言葉で用いられやすく、also は too より堅く (formal)、書き言葉でより多く用いられますが、両者はともに「～もまた」という意味の副詞です。さて、これら2つの副詞は、次の2文でそれぞれ文中のどの要素を修飾するのでしょうか。

- (1) a. John, **too**, e-mailed Mary.  
 b. John **also** e-mailed Mary.

(1a) は、「(マイクやビルだけでなく) ジョンもまたメアリーにメールを送った」という意味で、too が、その前の主語 John を修飾することは明らかです。それでは、(1a) には too がその後ろの要素を修飾する解釈はないのでしょうか。つまり、(1a) には次のような解釈はないのでしょうか。

- (2) a. 修飾要素 = **e-mailed** : 手紙やファックスだけでなく、  
 メールもまた送った。  
 b. 修飾要素 = **Mary** : Jane や Susan にだけでなく、Mary にもメールを送った。  
 c. 修飾要素 = **e-mailed Mary** : Jane に手紙を書き、Susan に電話をするだけでなく、Mary にメール



# Too, Also と Even, Only (2)

## 第7章

—文中のどの要素が修飾されるのか?—

### ● Even の不思議な振る舞い

前章で考察したように、too と also は、一般の副詞と同様に、動詞と短い目的語の間に位置することができず、次の (1a, b) のような文は不適格です。一方、even はこの位置に置くことが可能で、(2a, b) のような文は、何の問題もない適格文です。

- (1) a. \*John e-mailed, **too**, Mary.  
 b. \*John e-mailed **also** Mary.
- (2) a. John e-mailed **even** Mary.  
 b. He blamed **even** me.

同じ副詞なのに、too, also と even でどうしてこのような違いがあるのでしょうか。

次に、even の修飾ターゲットを考えてみましょう。(2a, b) の適格文で、even の修飾ターゲットは、後続要素の Mary や me のみで、先行要素の John や e-mailed, He や blamed は、even の修飾ターゲットにはなりません。したがって、たとえば (2a) の even の修飾ターゲットは、次のように示すことができます ((3i)-(3iii) で even の意図された修飾ターゲットに下線を引いて示します)。

- (3) John e-mailed **even** Mary. (=2a)  
 a. √修飾ターゲット = **Mary** : Jane や Susan にだけでなく、

# 副詞の修飾ターゲットと省略

## 第8章

### ● 同じ答え方なのになぜ？

まず、次の会話文を見てみましょう。

(1) Speaker A: I know that John e-mailed you. Did Bill e-mail you, **too**?

Speaker B: a. Yes, he e-mailed me, **too**.

b. Yes, he did  $\phi$ , **too**.

c. Yes, he did  $\phi$ .

(2) Speaker A: I know that Bill e-mailed John. Did he e-mail you, **too**?

Speaker B: a. Yes, he e-mailed me, **too**.

b. \*Yes, he did  $\phi$ , **too**.

c. Yes, he did  $\phi$ .

(1) の会話では、話し手 (A) の質問に対して、話し手 (B) は、(a), (b), (c) に示されているように、3通りの答えをしています。(a) では、完全な文 Yes, he e-mailed me, too. と答え、(b) では、動詞句の部分 (= e-mail me) を省略して、Yes, he did  $\phi$ , too. と答え、(c) では、さらに too も省いて Yes, he did  $\phi$ . とのみ答えています。これら3つの文は、すべて話し手 (A) の質問に対する適格な答えです。(2) の会話でも、話し手 (B) は、(1) の場合とまったく同じ答え方をしています。(a) と (c) は、話し手 (A)

# 数量詞遊離

## 第9章

### ● All, each, both だけがなぜ？

All, many, some, each, several, a few, three, much などの表現は、人や物の数量を表わすので、「数量詞」と呼ばれ、次の(1)-(9)の(a)のように、名詞(句)の直前に置かれて、その名詞(句)を修飾する形容詞として機能したり、(b)のように、前置詞句のof～を伴って(代) 名詞として機能したりします。

- (1) a. [**All** the students] will come to the party tonight.  
b. [**All** of the students] will come to the party tonight.
- (2) a. [**Many** people] will go to the concert.  
b. [**Many** of the people] will go to the concert.
- (3) a. [**Some** oranges] are rotten.  
b. [**Some** of the oranges] are rotten.
- (4) a. [**Each** sister] is married to a college professor.  
b. [**Each** of my sisters] is married to a college professor.
- (5) a. [**Several** employees] will lose their jobs.  
b. [**Several** of the employees] will lose their jobs.
- (6) a. [**Both** my parents] have visited Paris.  
b. [**Both** of my parents] have visited Paris.
- (7) a. [**Any** repairman] can fix your foreign car.  
b. [**Any** of the repairmen] can fix your foreign car.
- (8) a. [**Most** books] are quite interesting.